Y26a　2012年金環日食日本委員会による日食観察方法の広報活動

○大川拓也, 海部宣男, 大西浩次, 大越　治, 佐藤幹哉,　篠原秀雄, 齋藤　泉, 塩田和生, 塚田健, 松尾　厚三島和久, 森　友和, 山田陽志郎 (2012年金環日食日本委員会), 安藤享平, 小野智子, 高橋 淳（天文教育普及研究会・日食の安全な観察推進 ワーキンググループ)

太陽を見つめると眼を傷めるおそれがある。日食情報の広報においては、安全な観察方法の知識の普及に努める必要がある。その実例として、社会的に大きな話題となった2009年7月22日の皆既日食の前に展開された世界天文年2009日本委員会による広報と、これから起こる2012年5月21日の金環日食へ向けて活動中の2012年金環日食日本委員会による広報の比較を行い、その相違点を紹介する。

太陽を肉眼で直接見つめると眼に障害を負う危険性があることを警告している点は共通しているが、その原因として、2009年には紫外線や赤外線を指摘していたのに対し、現在では、可視光線のうちとくに短波長（380nm〜500nm付近）の青色光（ブルーライト）によって引き起こされる光化学作用が眼の網膜を傷める主な原因であるという知見を紹介するようになった。2012年の日食へ向けて、日食の1年前からシンポジウムを開催し情報交換の場を設けていることや、日本眼科学会、日本眼科医会との協力関係を築いていることも、2009年には見られなかった動きである。

これらの相違点は、世界天文年2009を契機とした情報発信活動をとりまく状況の変化とも関係している。2012年の金環日食は全国的に大きな話題となることが予想される。2009年とは異なる状況をふまえ、健康被害を予防する観点からも、さらなる広報活動を展開していく必要がある。